



第2期第2回デジタルライフライン全国総合整備実現会議 事務局資料  
2025年6月23日

# 自動運転やAIの社会実装を加速：「点から線・面へ」「実証から実装へ」 デジタルライフライン全国総合整備計画の概要

- 人口減少が進むなかでもデジタルによる恩恵を全国津々浦々に行き渡らせるため、約10年のデジタルライフライン全国総合整備計画を策定
- デジタル完結の原則に則り、官民で集中的に大規模な投資を行い、共通の仕様と規格に準拠したハード・ソフト・ルールのデジタルライフラインを整備することで、自動運転やAIのイノベーションを急ぎ社会実装し、人手不足などの社会課題を解決してデジタルとリアルが融合した地域生活圏※の形成に貢献する

## デジタルによる社会課題解決・産業発展

### 人手不足解消による生活必需サービスや機能の維持

#### 人流クライシス

中山間地域では  
移動が困難に…

#### 物流クライシス

ドライバー不足で  
配送が困難に…

#### 災害激甚化

災害への対応に  
時間を要する…

## アーリーハーベストプロジェクト

### 2024年度からの実装に向けた支援策

#### ドローン航路

180km以上

【送電線】埼玉県秩父地域  
【河川】静岡県浜松市(天竜川水系)

#### 自動運転サービス支援道

100km以上

【高速道路】新東名高速道駿河湾沼津SA～浜松SA間  
【一般道】茨城県日立市(大甕駅周辺)

#### インフラ管理のDX

200km<sup>2</sup>以上

埼玉県 さいたま市  
東京都 八王子市

### 奥能登版デジタルライフライン

有事に人がどこにいるかを把握するための共通の仕組みを平時から活用するためのインフラ整備等

## デジタルライフラインの整備

### ハード・ソフト・ルールのインフラを整備

#### ハード

- ✓ 通信インフラ
- ✓ 情報処理基盤等（スマートたこ足）
- ✓ モビリティ・ハブ（ターミナル2.0、コミュニティセンター2.0）等

#### ソフト

- ✓ 3D地図
- ✓ データ連携システム（ウラノス・エコシステム等）
- ✓ 共通データモデル・識別子（空間ID等）
- ✓ ソフトウェア開発キット 等

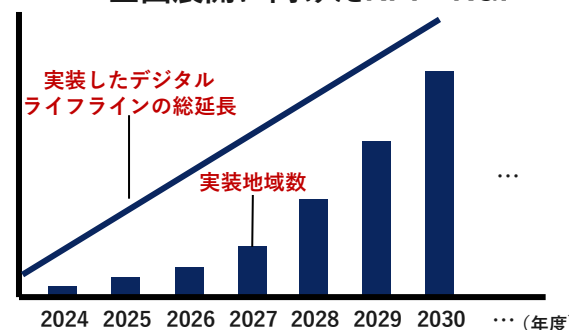
#### ルール

- ✓ 公益デジタルプラットフォーム運営事業者認定制度
- ✓ データ連携システム利用のモデル規約
- ✓ アジャイルガバナンス（AI時代の事故責任論）等

## 中長期的な社会実装計画

### 官民による社会実装に向けた約10力年の計画を策定

(箇所/距離) 全国展開に向けたKPI・KGI



#### 先行地域（線・面）

国の関連事業の

- 1 集中的な優先採択
- 2 長期の継続支援
- 3 共通の仕様と規格

# 本日の論点

## 2024年度の取組

2024年6月に、デジタルライフラインの整備に必要なアーキテクチャ（設計指針）やアーリーハーベストプロジェクトの基本的な仕様やコンセプト等を位置づけた「**デジタルライフライン全国総合整備計画**」を決定。

これに基づき、2024年度は、

- ・ 仕様・運用方法等の策定<sup>1</sup>
- ・ サービスの実装

の状況やその検討から示唆される課題を踏まえ、全国展開に向けた方針を以下の通り決定<sup>1</sup>することを目指す。

- ・ 官民で目指すべきデジタルライフラインの整備、活用目標及び必要なアクションを位置づけた「**ロードマップ**」
- ・ 事業者・地方自治体がデジタルライフラインを整備・活用する上で参照すべき「**ガイドライン**」



## 成果物と今後の進め方

成果物

1

仕様・運用方法  
(ConOps<sup>3</sup>)



サービスの実装



全国展開に向けた  
方針の決定

整備・活用目標  
アクション（ロードマップ）



詳細な仕様・運用方法  
(ガイドライン)



2

今後の  
政策方針



本日の  
論点

1

各プロジェクトの  
2024年度の総括と2025年度の主要  
マイルストーンの設定について

- ・ 総括内容や目標設定の是非について
- ・ それぞれの取組における課題について 等

2

短期のKPI達成に向けた政府全  
体の集中的な取組事項について

- ・ 民間各社における各取組への参画・連携可能性について
- ・ 取組間で連携強化が必要な点について 等

<sup>1</sup> 各プロジェクトの議論・実証等を踏まえて仕様の整ったものから作成・策定を行い、その他のプロジェクトについては検討を継続する。

<sup>2</sup> 年度を超えて検討する事項については継続して議論を実施。

<sup>3</sup> Concept of Operation（運用概念書）：包括的な運用概念として、ビジョンを提示するとともに、運用および技術要件を記述したもの。

# ドローン航路 | 2024年度の総括

先行地域（秩父エリア、浜松市）の計180kmにおいてドローン航路の社会実装を開始。  
全国展開に向け、設計・運用に際しての規範となる「ガイドライン」「仕様・規格」及び参照実装された「ドローン航路システム」を公開。

## 実績

先行地域の秩父エリア（150km）及び浜松市（30km）にてドローン航路開通式を実施し、先行的なドローン航路の社会実装を開始。コンセプトや机上検討ではなく、実際にドローン航路の仕様・規格を定め、社会実装を行ったのは、日本が世界で初めての事例。



ドローン航路開通式の様子（出典：経済産業省）



空間デジタルツイン上で画定されたドローン航路  
（出典：Trajectory）



報道の様子  
（出典：テレ東Biz ワールドビジネスサテライト  
[https://txbiz.tv-tokyo.co.jp/wbs/news/post\\_314850](https://txbiz.tv-tokyo.co.jp/wbs/news/post_314850)）

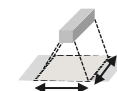
## 成果物

※公開は2025年度

- ドローン航路の設計・運用に際して準拠すべき規範文書としての「ガイドライン（航路運営者向け/運航事業者向け）」及び「ドローン航路、離着陸場及びドローン航路システムの仕様・規格」の策定。
- ガイドライン等で定めるドローン航路の機能要件を参照実装したオープンソースソフトウェア（OSS）である「ドローン航路システム」を情報処理推進機構のGitHubで一般開放。
- ドローン航路取組の予測可能性を高めるため、今後10年間のマイルストーンとアクションを示した「ドローン航路ロードマップ」及び「ドローン航路全国線整備地図」を公開。



ガイドライン



仕様・規格



ドローン航路  
システム（OSS）



ロードマップ



全国線整備地図

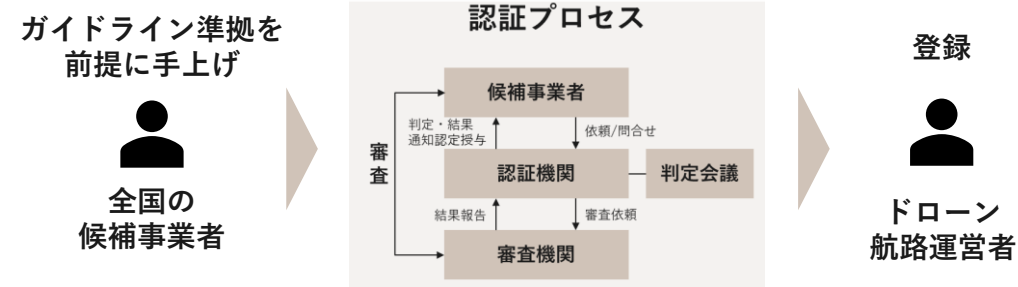
# ドローン航路 | 2025年度の主要マイルストーンの設定

取組の拡大に向け、仕様・規格への適合性認証等の制度の立ち上げ、ガイドライン・仕様規格・システムのアップデート、国際標準化活動への打ち込みを進める。

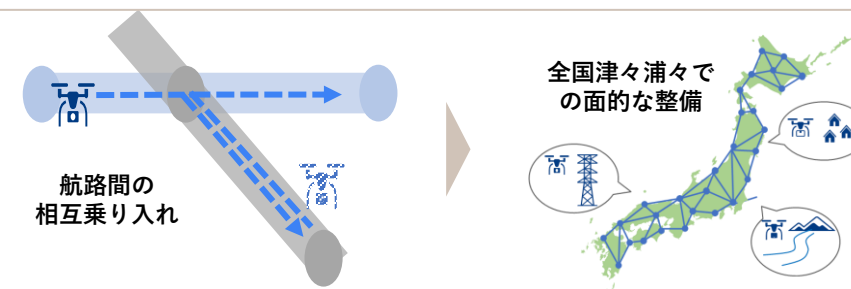
## 主要マイルストーン

1. ガイドライン及び仕様・規格に基づくドローン航路/航路運営の適合性認証、ドローン航路システムの運用に係る認定を行う「**ドローン航路登録制度(仮名)**」の実証を実施予定。(※)

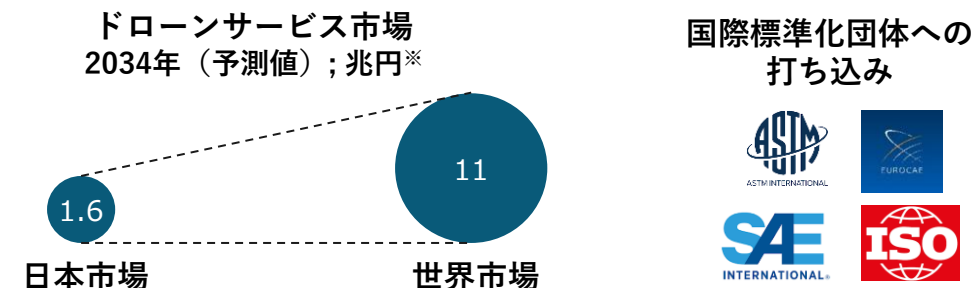
※昨年度、国の事業の中で先行的に社会実装を行なった公募採択事業者についても、登録実証を実施することを想定。



2. 異なるドローン航路運営者同士のドローン航路の相互乗入に向けたガイドライン、仕様・規格、ドローン航路システムOSSのアップデートを実施。



3. デジュール (ISO等) / フォーラム (ASTM Intl.、EUROCAE等) 国際標準化団体の標準化活動への打ち込みを検討。





# インフラ管理DX | 2024年度の総括

先行地域（さいたま市、八王子市）において、公益事業者のデータの一部取得、補正、ユースケースへの活用を実施。  
全国展開に向け、「ガイドライン（α版）」及び参照実装用の「インフラ管理DXシステム」「データ整備支援ツール」を公開。

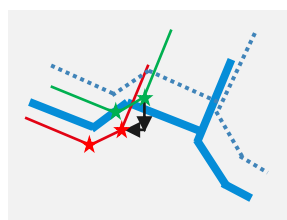
## 実績

先行地域（さいたま市、八王子市）の一部地域を対象に以下を実施。

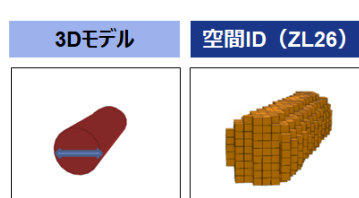
- ・公益事業者（電気、ガス、通信）によるデータの一部取得
- ・データの位置補正等を実施するデータ整備支援ツールの開発
- ・アクセス制御等を行うインフラ管理DXシステムの開発
- ・ユースケース（埋設物照会、マシンガイダンス、災害対応）実証



手書き紙図面（一例）

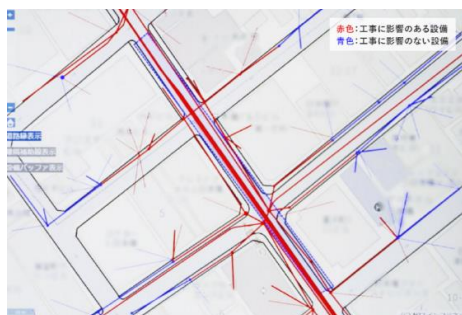


各社共通の位置基準に基づいた補正



共通フォーマットへの変換

各社間でのデータ共有に向けたデータの取得、標準化の流れ



ユースケース実証（左：埋設物照会 右：マシンガイダンス）

## 成果物

※公開は2025年度

1. 公益事業者がデータ整備を実施する上で参照可能な文書としての「ガイドライン（α版）」を策定。



ガイドライン  
（α版）

2. 「データ整備支援ツール」及び「インフラ管理DXシステム」を情報処理推進機構のGitHubで一般開放。



インフラ管理DX  
システム（OSS）



データ整備  
支援ツール

3. 取組の予見可能性を高めるための今後10年間のマイルストーンとアクションを示した「インフラ管理DXロードマップ」を公開。



ロードマップ

# インフラ管理DX | 2025年度の主要マイルストーンの設定

取組の継続に向けて、より大きい需要が存在するユースケースの実現のため、必要なデータ項目等の策定及びデータ整備、データ整備を行う第三者の要件の検討、システム、ツールのアップデート<sup>1</sup>を進める。

## 主要マイルストーン

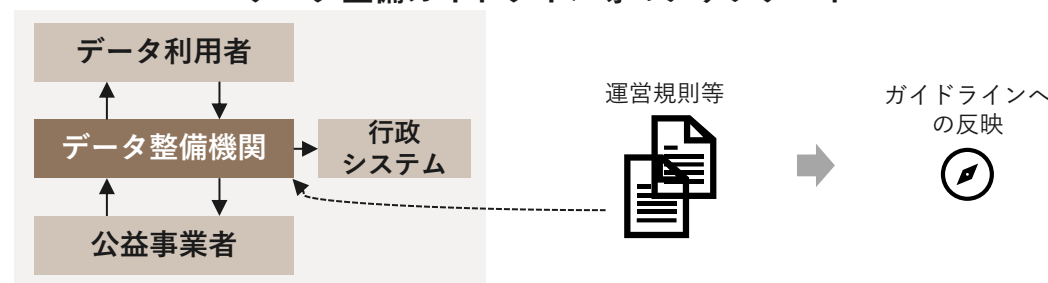
1. ユースケースにおける必要なデータ項目等を「データ要件定義書」として定めるとともに、定義に基づいた必要なデータの整備を実施予定。

埋設物照会等を例にした具体的な進め方（イメージ）



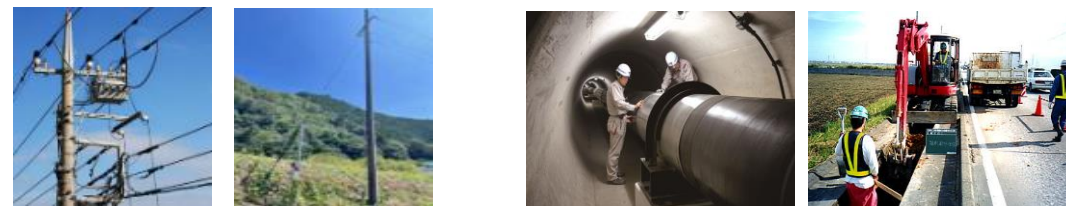
2. データ整備を実施する第三者（データ整備機関）に求められる要件（中立性等）を検討し、データ整備ガイドライン等のアップデートを実施予定。

データ整備ガイドライン等のアップデート



3. ユースケース実現に向けた必要な機能開発を実施し、データ整備支援ツール、インフラ管理DXシステムのアップデートを実施予定。

データ整備支援ツール、システムのアップデート



データ整備ツールの  
地上設備等への拡大

設備更新による  
データの更新等への対応  
Copyright © 2025 METI/DADC

<sup>1</sup> データ項目等の策定、整備要件の検討やシステム、ツールのアップデートについては、国土交通省 他関係省庁の取組とも連携して進める。

# 自動運転サービス支援道 | 2024年度の総括

先行地域（新東名、日立市大甕駅）において課題検証等を実施。  
車両情報連携に向けた実証用仕様書及び参照実装用のシステムを公開。

## 実績

先行地域である新東名高速道路において、優先レーンを設定し、合流支援・先読み情報提供の実証実験を開始。また、大甕駅周辺の一般道においては、自動運転バス事業としての面的な実装に向けた課題検証等を実施。

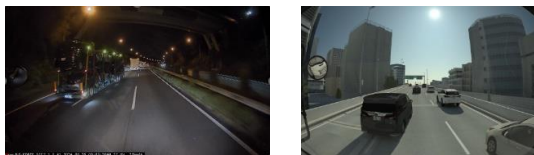


新東名高速道路における実証実験の様子

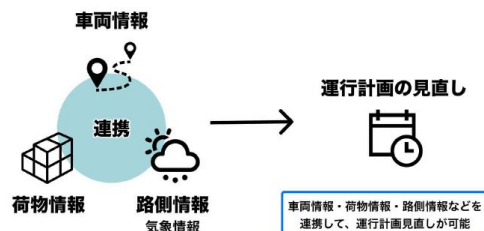


一般道における自動運転実証

データ連携に関する取組として、V2Nの安全走行支援、ニアミス情報の集約・活用、共同輸送におけるマッチング支援のサービス実装に向けた実証実験等を実施。



走行中のニアミス情報の  
収集・シナリオ作成



物流運行における  
運行監視システムとの連携

## 成果物

※公開は2025年度

1. 車両プローブ情報連携に向けた実証実験において参照すべき「**実験用システム要求／インターフェース仕様書**」を策定。



実験用システム要求／  
インターフェース仕様書

2. 加えて、参照実装を行った**各種システム**を情報処理推進機構のGitHubで一般開放。



各種システム

（共同輸送支援、車両情報連携、ニアミス情報シナリオ化等）

3. 取組の予見可能性及び関連する政策との整合性を高めるための今後10年間のマイルストーンとアクションを示した「**自動運転サービス支援道ロードマップ**」を公開。



ロードマップ



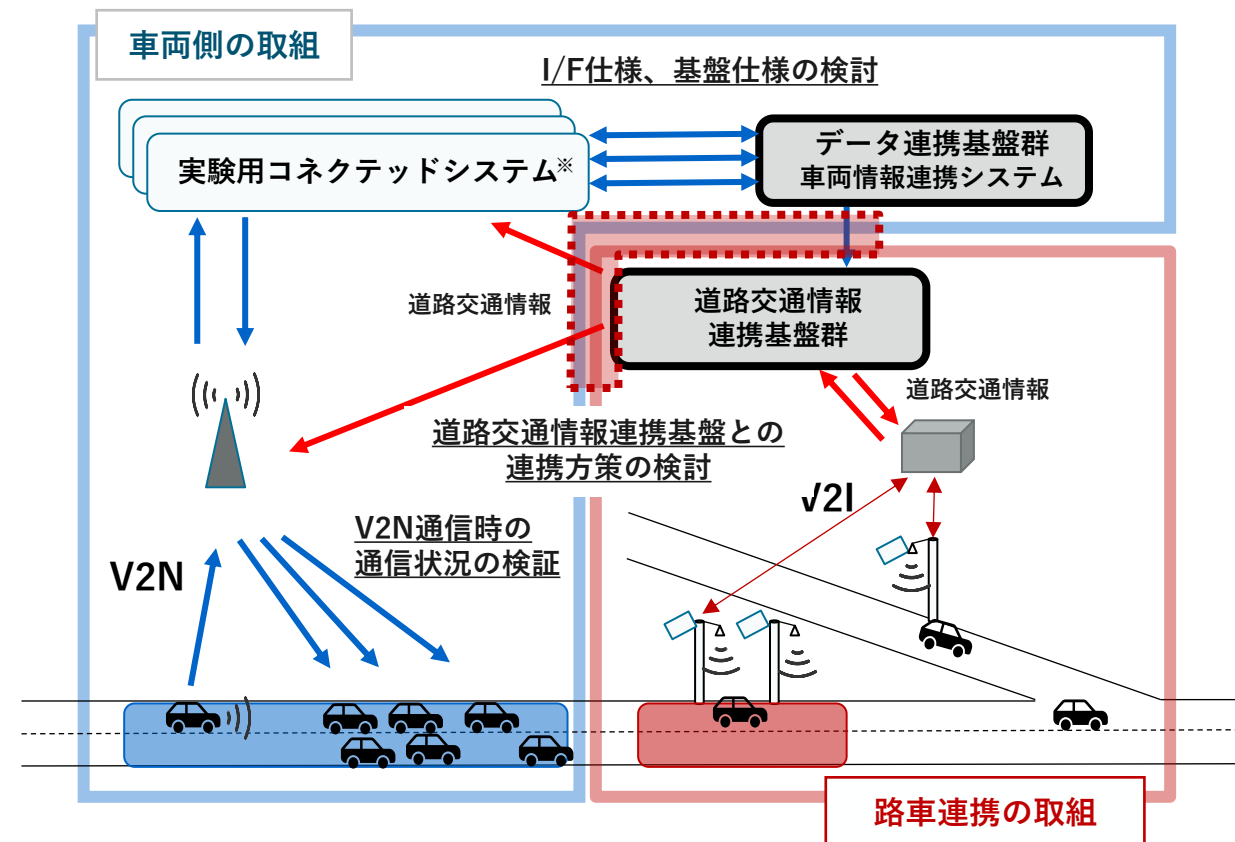
# 自動運転サービス支援道 | 2025年度の主要マイルストーンの設定

道路インフラに必要な機能等の検証のため東北自動車道の一部区間における取組を進めるとともに、安全運転支援に関する情報配信、物流等のデータ連携について、サービス実現に向けた課題検証を進める。

## 主要マイルストーン

1. 道路インフラに必要な機能等の検証のため、現在、実証を進めている新東名高速道路（駿河湾沼津SA～浜松SA）とは異なる道路環境を有する東北自動車道の一部区間（約40km）において道路インフラによる支援の取組を進める。
2. 自動運転バス事業の事業モデルの検証及び遠隔支援に必要な情報のインターフェースの標準化を検討する。
3. ネットワークを介した情報配信（V2N）の在り方について、他の基盤（道路交通情報基盤群等）との連携も含めて、技術的、事業的課題の検証を進める。
4. シミュレーションの活用に向けたニアミスデータ等の定義、シミュレーションの在り方の検討を進める。
5. 幹線共同輸送の実現におけるマッチング等の円滑化に向けた、業務要件の定義や課題の抽出を実施し、データ連携や標準化の検討を行う。

※上記の検討において、関係省庁とも連携して、実証実験を合同で公募し、企画、実証実験、議論を実施する取組（高速道FOT）を開始。



能登半島地震での教訓を踏まえ、支援等に必要な情報について、共助拠点を通じてフェーズフリーで収集・活用可能な仕組みの検証を進める。

## 能登半島地震での教訓・課題意識

1. 発災直後～復興段階のサービス提供を行う上で、様々な要因で指定避難所以外に避難する被災者の把握・ケアに労力を要し、サービス提供の遅れが発生。
2. マイナンバーカード等を活用した被災者把握の仕組みは携行率等の問題があり全面的な活用はなされず。有事用途だけでは運用コスト・担い手・住民認知等の課題が存在。

人・ハブ・物の場所等の必要な情報を把握するための共通の仕組みを平時から活用することが必要。

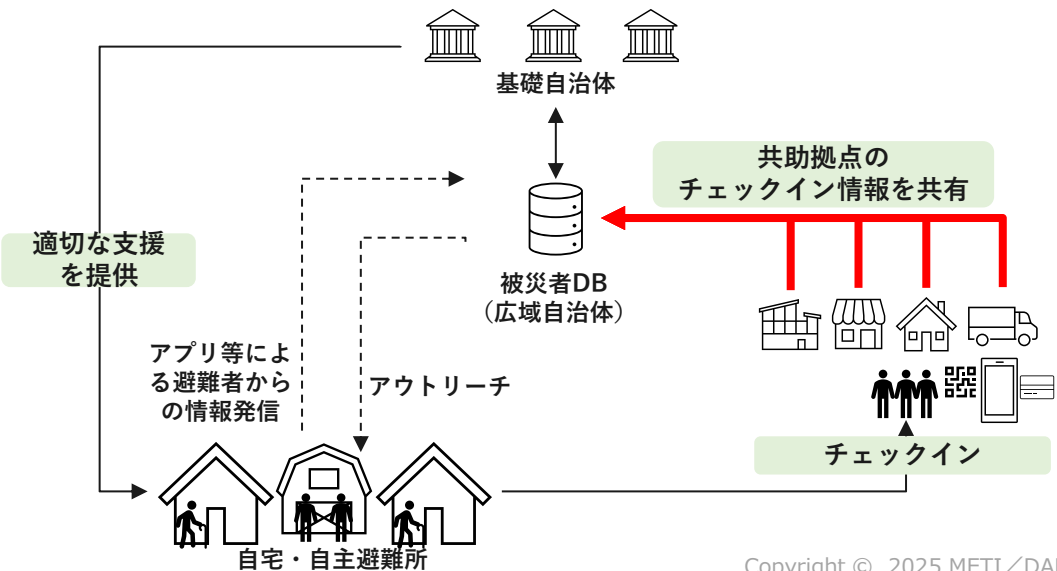
|                |                              |
|----------------|------------------------------|
| <b>A</b> 人の把握  | 避難所内／外の人間の位置・性質<br>避難所退所後の状況 |
| <b>B</b> ハブの把握 | 指定避難所及び自主避難所の位置・性質の把握        |
| <b>C</b> 物の把握  | 有事における各ハブの設備・物資の状況と、近傍住民との関係 |

## 2025年度の 主要マイルストーン

災害時に避難所となる公民館等のデジタル防災拠点としての整備と併せて、災害時の避難者情報収集の質・量の改善に繋げるための、**共助拠点のチェックイン情報を行政にフェーズフリーで連携する仕組み**を石川県において検証する。

## 将来的な展望

把握した情報について、有事（ドローン等を用いた緊急時物資支援等）のみならず、平時のユースケース（地域交流・医療MaaS等のサービス提供等）への活用に繋げる。



# アーリーハーベストプロジェクトのKPIの見直し・明確化について

|     |                    | ドローン航路                                  |                                       | 自動運転サービス支援道                       |                                                       | インフラ管理DX                               |
|-----|--------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------|
|     |                    | 河川※2                                    | 送電網                                   | 高速                                | 一般                                                    |                                        |
| KPI | アーリーハーベスト<br>(1年目) | 静岡県 浜松市<br>天竜川水系上空 30km                 | 埼玉県 秩父地域<br>送電網上空 150km               | 新東名高速道路<br>駿河湾沼津SAー浜松<br>SA間100km | 茨城県 日立市<br>大甕駅周辺                                      | さいたま市・八王子市<br>におけるデータ整備                |
|     | 短期<br>(3年目安)       | 全国の一級河川上空<br>100km※3 (全国9地方<br>×10km以上) | 全国の送電網上空<br>関東の中山間地域をは<br>じめとして1万km※4 | 東北自動車道等※5<br>佐野SAー大谷PA間<br>約40km  | 自動運転移動サービス<br>実装地域<br>50箇所程度※8,※9                     | 全国の主要都市におけ<br>るデータ整備<br>10箇所           |
|     | 中長期<br>(～10年目)     | 全国の一級河川上空<br>国管理の一級河川の総<br>延長 1万km      | 全国の送電網上空<br>4万km                      | 東北～九州※6                           | 自動運転移動サービス<br>実装地域<br>100箇所※4,※7,※9以上                 | 全国の主要都市におけ<br>るデータ整備<br>50箇所           |
|     | 達成される<br>姿         | 需要のある主要幹線における<br>巡視・点検、物流等のドローンサービスの実装  |                                       | 全国主要幹線物流路におけ<br>る自動運転の実装          | 自動運転の実装が有望であ<br>り、地域交通の担い手確保<br>が困難な地域における移動<br>手段の確立 | 費用対効果が見込める規模<br>の主要都市におけるインフ<br>ラDXの実装 |
| KGI |                    | 達成を目指す経済効果 10年間累積 2兆円※8                 |                                       |                                   |                                                       |                                        |

※1 大規模災害の発生により社会インフラに基大な被害が生じた地域においては、社会インフラの早期復旧とあわせて、特に需要のあるデジタルライフラインの整備を通じた創造的復興の実現可能性についても検討する

※2 延長については、一級河川のうち、国が管理する区間のみを計上

※3 2024年度に先行的に取り組むアーリーハーベストプロジェクトの実装状況を踏まえて詳細を検討

※4 2027年度を目途とする

※5 車両開発状況や物流ニーズを踏まえて決定するとともに、適宜、他の路線・区間についても追加を検討するものとする

※6 物流ニーズを考慮した区間とする

※7 「デジタル田園都市国家構想総合戦略（令和4年12月23日閣議決定）」における目標と整合するものとし、自動運転サービス支援道等のインフラからの支援なく自動運転移動サービスを実現しているものを含む。

※8 アーリーハーベストの一部ユースケースの展開のみを算出に含めたものであり継続して精査中

※9 「モビリティロードマップ2025（令和7年6月13日決定）」における先行的事業化地域の選定（10か所程度）とも連携

短期のKPI達成に向けた政府全体の集中的な取組事項



奥能登

|                    | ドローン航路                                                                                                                                                                                                                                                           |                                       | 自動運転サービス支援道                                                                                                                                                                                                                 |                                        | インフラ管理DX                                                                                                                                               |                            |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
|                    | 河川※1                                                                                                                                                                                                                                                             | 送電網                                   | 高速                                                                                                                                                                                                                          | 一般                                     |                                                                                                                                                        |                            |
| アーリーハーベスト<br>(1年目) | 静岡県 浜松市<br>天竜川水系上空 30km                                                                                                                                                                                                                                          | 埼玉県 秩父地域<br>送電網上空 150km               | 新東名高速道路<br>駿河湾沼津SAー浜松SA間<br>100km                                                                                                                                                                                           | 茨城県 日立市<br>大甕駅周辺                       | さいたま市・八王子市<br>におけるデータ整備                                                                                                                                |                            |
| 短期<br>(3年目安)       | 全国の一級河川上空<br>100km※2 (全国9地方<br>×10km以上)                                                                                                                                                                                                                          | 全国を送電網上空<br>関東の中山間地域をは<br>じめとして1万km※3 | 東北自動車道等※4<br>佐野SAー大谷PA間<br>約40km                                                                                                                                                                                            | 自動運転移動サービス実<br>装地域<br>50箇所程度※7, ※8, ※9 | 全国の主要都市におけ<br>るデータ整備の着手6<br>10箇所                                                                                                                       | 被災者情報の把<br>握の手法確立<br>奥能登地域 |
| 官主導の<br>集中的な<br>取組 | <ul style="list-style-type: none"><li>ドローンによる河川巡視・点検効率化／高度化、Smart River Spotの整備【国交(水国)】</li></ul>                                                                                                                                                                |                                       | <ul style="list-style-type: none"><li>支援道における道路インフラに必要な各種基準等・パッケージの作成【国交(道路)】</li><li>基幹物流拠点の整備に係る関与・支援に関する検討【国交(物自)】</li><li>高速道路での自動運転実現に向けた継続的な実証【経産(製造)】</li><li>V2X通信規格の検討・策定【総務(基盤)】</li></ul>                        |                                        | <ul style="list-style-type: none"><li>路車協調システムに必要な技術基準等の作成【国交(道路)】</li><li>信号情報提供技術の検討・確立【警察】</li><li>通信システムの信頼性確保の検証【総務(情流)】</li></ul>                |                            |
|                    | <ul style="list-style-type: none"><li>ドローン航路登録制度の運用に向けた検討【経産(商情)】</li><li>ドローン航路の航空法上の許可・承認申請の事前作業簡略化の検討と実証【国交(航空)／経産(商情)】</li><li>ドローン航路とUTMとの連携検討【経産(製造・商情)／国交(航空)】</li><li>ドローン航路システムのDIPS、SWIMとの連携【国交(航空)／経産(商情)】</li><li>ドローン航路の国際市場展開の推進【経産(商情)】</li></ul> |                                       | <ul style="list-style-type: none"><li>自動運転技術の開発・実証支援【経産(製造)】</li><li>ネットワークを介した環境情報の配信在り方の検討、車両情報の活用推進【経産(商情)／総務(基盤)／国交(道路)】</li><li>安全性評価環境の構築【経産(製造・商情)／国交(物自)】</li><li>円滑な運行のためのインフラ活用に向けた検討【経産(商情・製造)／国交(道路)】</li></ul> |                                        | <ul style="list-style-type: none"><li>埋設物照会等の多種多様なユースケース実現に向けて整備すべきデータの明確化、データ整備機関に求められる要件の検討【経産(商情)】</li><li>効率的なデータ整備に向けた技術・ツールの開発【経産(商情)】</li></ul> |                            |

※1 延長については、一級河川のうち、国が管理する区間のみを計上  
※2 2024年度に先行的に取り組むアーリーハーベストプロジェクトの実装状況を踏まえて詳細を検討  
※3 2027年度を目途とする  
※4 車両開発状況や物流ニーズを踏まえて決定するとともに、適宜、他の路線・区間についても追加を検討するものとする  
※5 第10回デジタル行財政改革会議 平大臣資料に記載の先行的事業化地域を指す。

※6 下線部については、2024年度の取組状況やその他の施策の状況を踏まえて、短期の目標を変更／明確化  
※7 「デジタル田園都市国家構想総合戦略（令和4年12月23日閣議決定）」における目標と整合するものとし、自動運転サービス支援道等のインフラからの支援なく自動運転移動サービスを実現しているものを含む。  
※8 アーリーハーベストの一部ユースケースの展開のみを算出に含めたものであり継続して精査中  
※9 「モビリティロードマップ2025（令和7年6月13日決定）」における先行的事業化地域の選定（10か所程度）とも連携



# 「先行的事業化地域」パターン（案）

## ① 最新技術活用型（潜在需要解放型）

- ドライバー不足等により我慢せざるを得ない移動需要を自動運転で満たすパターン

（例 1）

ロボットタクシーで大都市の個別ニーズにオンデマンドに対応



（例 2）

小型バスで公共交通が少なく自由な移動ができない地方部での任意の行先への移動にオンデマンドに対応



I オンデマンド（任意経路）  
× 乗用車型

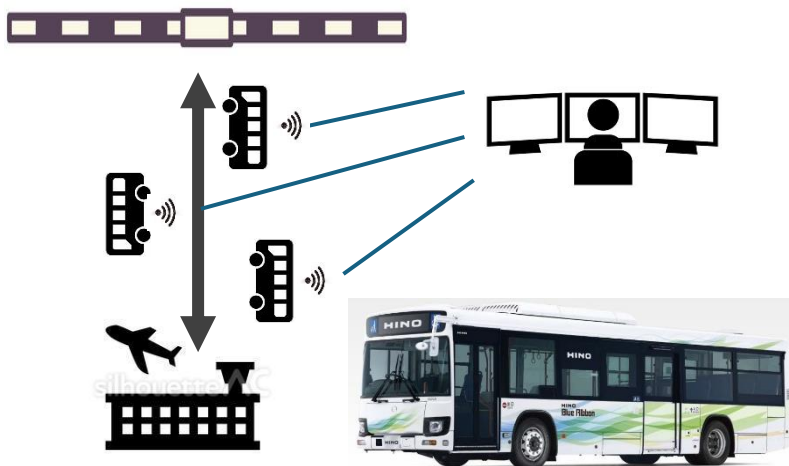
II オンデマンド（複数経路）  
× バス型

## ② 運行エリア拡大型

- 自動運転レベル4で運行している車両を、自治体内の他の地域・路線に拡大し、コスト面等の課題を解決するパターン

（例 3）

一定以上の需要があるエリアで、路線にあったバスを複数台導入し、1台当たりのコストをカット



III 定時運行（特定経路）  
× バス型

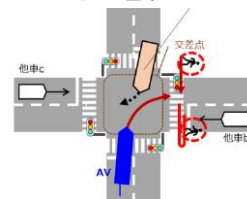
IV 定時運行（特定経路）  
× グリーンスローモビリティ型

## ③ 技術的課題解決型

- 技術的課題を解決し、既存のバス路線等を自動運転で代替し、自動運転レベル4で運行を目指すパターン

（例 4）

中型バスで一定の交通量のある交差点でのスムーズな右折等の課題を解決し、既存交通の代替を実現



（例 5）

グリスロ等現在の技術レベルで円滑な交通を妨げる恐れのない地域（細街路の多い過疎地等）で運行



III 定時運行（特定経路）  
× バス型

IV 定時運行（特定経路）  
× グリーンスローモビリティ型

# 今後のスケジュール

- ・ プロジェクト毎のWGを必要に応じて年に1・2回開催し、個別論点の議論、取組の横連携を図る。
- ・ 2025年度のマイルストーン及び政府全体の集中的な取組事項については、継続的にフォローアップを行う。
- ・ 実現会議については、上記のフォローアップの状況を踏まえて、必要に応じた開催を想定。

## 2025年度のマイルストーン（再掲）

### ドローン航路

1. ガイドライン及び仕様・規格に基づくドローン航路/航路運営の適合性認証、ドローン航路システムの運用に係る認定を行う「ドローン航路登録制度(仮名)」の実証を実施予定。

2. 異なるドローン航路運営者同士のドローン航路の相互乗入に向けたガイドライン、仕様・規格、ドローン航路システムOSSのアップデートを実施。

3. ドローン航路、離着陸場及びドローン航路システムの仕様・規格については、デジュール（ISO等）/ フォーラム（ASTM Intl.、EUROCAE等）国際標準化団体の標準化活動への打ち込みを検討。

### インフラ管理DX

1. ユースケースにおける必要なデータ項目等を「データ要件定義書」として定めるとともに、定義に基づいた必要なデータの整備を実施予定。

2. データ整備を実施する第三者（データ整備機関）に求められる要件（中立性等）を検討し、データ整備ガイドライン等のアップデートを実施予定。

3. ユースケース実現に向けた必要な機能開発を実施し、データ整備支援ツール、インフラ管理DXシステムのアップデートを実施予定。

### 自動運転サービス支援道

1. 道路インフラに必要な機能等の検証のため、現在、実証を進めている新東名高速道路（駿河湾沼津SA～浜松SA）とは異なる道路環境を有する東北自動車道の一部区間（約40km）において道路インフラによる支援の取組を進める。

2. 自動運転バス事業の事業モデルの検証及び遠隔支援に必要な情報のインターフェースの標準化を検討する。

3. ネットワークを介した情報配信（V2N）の在り方について、他の基盤（道路交通情報基盤群等）との連携も含めて、技術的、事業的課題の検証を進める。

4. シミュレーションの活用に向けたニアミスデータ等の定義、シミュレーションの在り方の検討を進める。

5. 幹線共同輸送の実現におけるマッチング等の円滑化に向けた、業務要件の定義や課題の抽出を実施し、データ連携や標準化の検討を行う。

### 奥能登

災害時に避難所となる公民館等のデジタル防災拠点としての整備と併せて、災害時の避難者情報収集の質・量の改善に繋げるための、共助拠点のチェックイン情報を行政にフェーズフリーで連携する仕組みを石川県において検証する。

## 経済財政運営と改革の基本方針2025（骨太方針2025）（2025年6月13日閣議決定）の抜粋

G X ・ D X が進展する新時代に、地域経済や地域社会を適応させていくことが重要であり、G X ・ D X を進展させ経済成長させる産業立地（G X 産業立地）の推進に向けたインフラ整備として、ワット・ビット連携を推進する。自動運転・ドローン・A I 技術といった新技術の社会実装を地方でこそ加速すべく、デジタルライフラインの全国整備を進め、A I やデジタルなども活用しながら生活環境の維持向上や地方経済の高付加価値化など地域の課題解決に向けた取組が行われている市町村10割を目指す。（中略）

「デジタルライフライン全国総合整備計画」及び企業・業種横断のデータ基盤・システム連携のプラットフォーム構築（ウラノス・エコシステム）を推進し、D X を通じた社会課題の解決とイノベーションを後押しする。

## 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版（2025年6月13日閣議決定）の抜粋

今後10年を見据えたデジタル時代の社会インフラ整備を目的とする「デジタルライフライン全国総合整備計画」及び関連するロードマップやガイドライン等に基づき、自動運転サービス支援道、ドローン航路、インフラD X 等の早期実施プロジェクトの結果も踏まえ、ハード・ソフト・ルールの3つの側面からデジタルライフラインの全国展開を加速する。

## 地方創生2.0基本構想（2025年6月13日閣議決定）の抜粋

地方における生活必需サービスの維持・継続に向け、地方において自動運転やドローン等のデジタル技術を活用したサービス展開が可能となるよう、自動運転サービス支援道、ドローン航路、インフラ管理D X 等の早期実施プロジェクトの成果も踏まえ、ハード・ソフト・ルールの3つの側面からデジタルライフラインの全国展開を加速する。

### 【当面の目標】

- ドローン航路：全国の国管理の一級河川（1万km）、送電網上空（4万km）での整備を目指す
- 自動運転サービス支援道：物流ニーズ等を踏まえ、東北から九州までをつなぐ幹線網の形成を図る

## デジタル社会の実現に向けた重点計画（2025年6月13日閣議決定）の抜粋

生活必需サービスや機能を維持するにあたっては、自動運転・ドローン等の社会実装を地方でこそ加速すべく、**自動運転サービス支援道、ドローン航路、インフラ管理DX等のアーリーハーベストプロジェクト21の成果も踏まえ、「デジタルライフライン全国総合整備計画」に関する取組を推進**する。「デジタルライフライン全国総合整備計画」及び関連するロードマップやガイドライン等に基づき、各府省庁が一体となって実証段階から実装への移行を加速しデジタルライフラインの全国整備を推進する。この際、**共通の仕様や規格等を策定し事業者等に準拠を求めることを基本とし、送電網や河川上空におけるドローン航路や、自動運転サービス支援道の全国展開を加速**する。特にドローン航路の全国展開に向けて適合性評価を行うため、**ドローン航路登録制度の開始に向けた詳細検討**に着手する。また、インフラ管理のDXについては、地下埋設管等のデータ整備のあり方に関する検討を先行自治体において進める。加えて、奥能登デジタルライフラインとして、被災時の支援に必要な人、ハブ、支援物資等の情報把握の仕組みの構築を支援する。

### 【当面の目標】

○自動運転サービス支援道：物流ニーズも考慮したうえで、2025年度以降に**東北自動車道に約40kmの自動運転サービス支援道**を設定することを目指す。

○ドローン航路：**2027年度目途に全国の送電網上空1万km、2033年度までに全国の送電網上空4万kmのドローン航路整備**を目指す。